

株式会社 東京精密 2018年度(平成31年3月期) 第2四半期 決算説明会

2018年11月13日

*

◆ 将来の事象に係わる記述に関する注意

- 本資料に記載されている情報は、現時点で入手可能な情報をもとに、当社が合理的であると判断した一定の前提に基づいております。
- これらは、市況、競争状況、半導体業界ならびに自動車関連業界等の世界的な状況を含む多くの不確実な要因の影響を受けます。
- 従って、今後の当社の実際の業績が、本資料に記載されている情報と大きく異なる場合がありますことをご承知おき下さい。

◆ 表記データ・用語について

- 注記がある場合を除き、半導体製造装置セグメントを「半導体」、精密計測機器セグメントを「計測」、また親会社株主に帰属する当期純利益を「当期純利益」と記載します。
- 記載されている金額や比率の情報は、注記がある場合を除き、億円またはパーセントによる要約表示を行っております。その為、内訳の計が、合計と一致しない場合があります。

◆ 監査について

- 本プレゼンテーション資料は、監査法人による監査の対象外です。

次第

- ◆ 2018年度第2四半期 業績説明
- ◆ 中期目標の進捗
- ◆ 2018年度通期業績予想
- ◆ 質疑応答

単位：億円	2017年度		2018年度		
	上期	下期	上期	前下期比 H/H	前年同期比 Y/Y
売上高	437	445	512	+15%	+17%
半導体製造装置	303	292	358	+23%	+18%
計測機器	133	154	154	+0%	+16%
営業利益	89	84	102	+22%	+15%
半導体	64	49	68	+39%	+8%
同率	21%	17%	19%	-	-
計測	26	34	34	-0%	+33%
同率	19%	22%	22%	-	-
経常利益	90	82	108	+30%	+19%
当期純利益	64	64	79	+24%	+24%

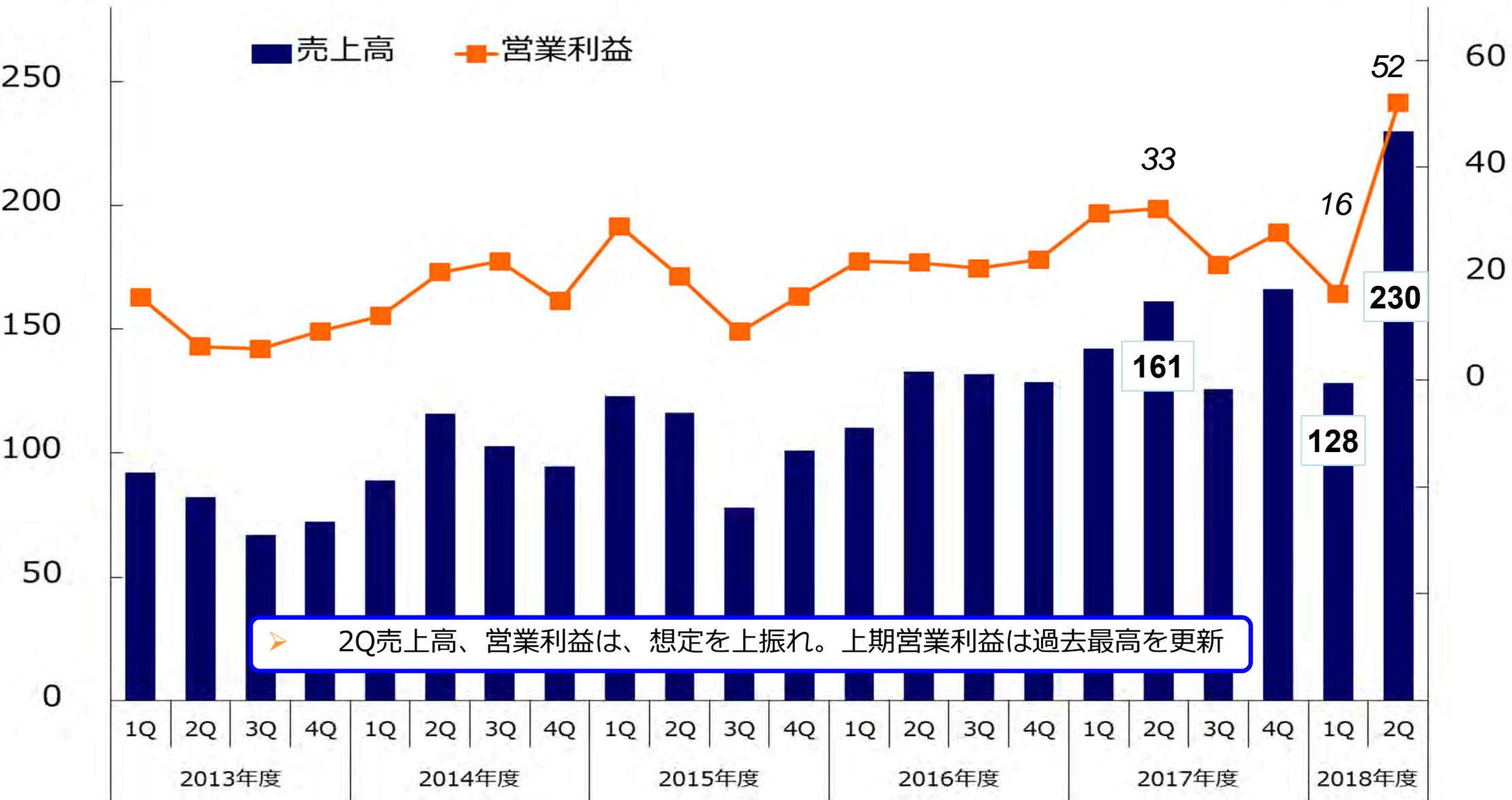
- 半導体では一部部材の納入遅延について一定の改善が見られ、出荷が進み、Y/Yで増収増益
- 計測は、自動車・工作機械関連需要が堅調、増収増益

単位: 億円	2017年度				2018年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	前四半期比 Q/Q	前年同期比 Y/Y
売上高	199	238	192	253	198	314	+58%	+32%
半導体製造装置	142	161	126	166	128	230	+79%	+43%
計測機器	57	76	67	87	70	84	+19%	+10%
営業利益	40	49	36	48	31	71	+127%	+46%
半導体	31	32	22	28	16	52	+220%	+62%
同率	22%	20%	17%	17%	13%	23%	-	-
計測	9	17	14	20	15	19	+26%	+14%
同率	16%	22%	22%	23%	21%	23%	-	-
経常利益	41	49	36	46	34	74	+121%	+51%
当期純利益	29	35	26	38	26	53	+109%	+54%

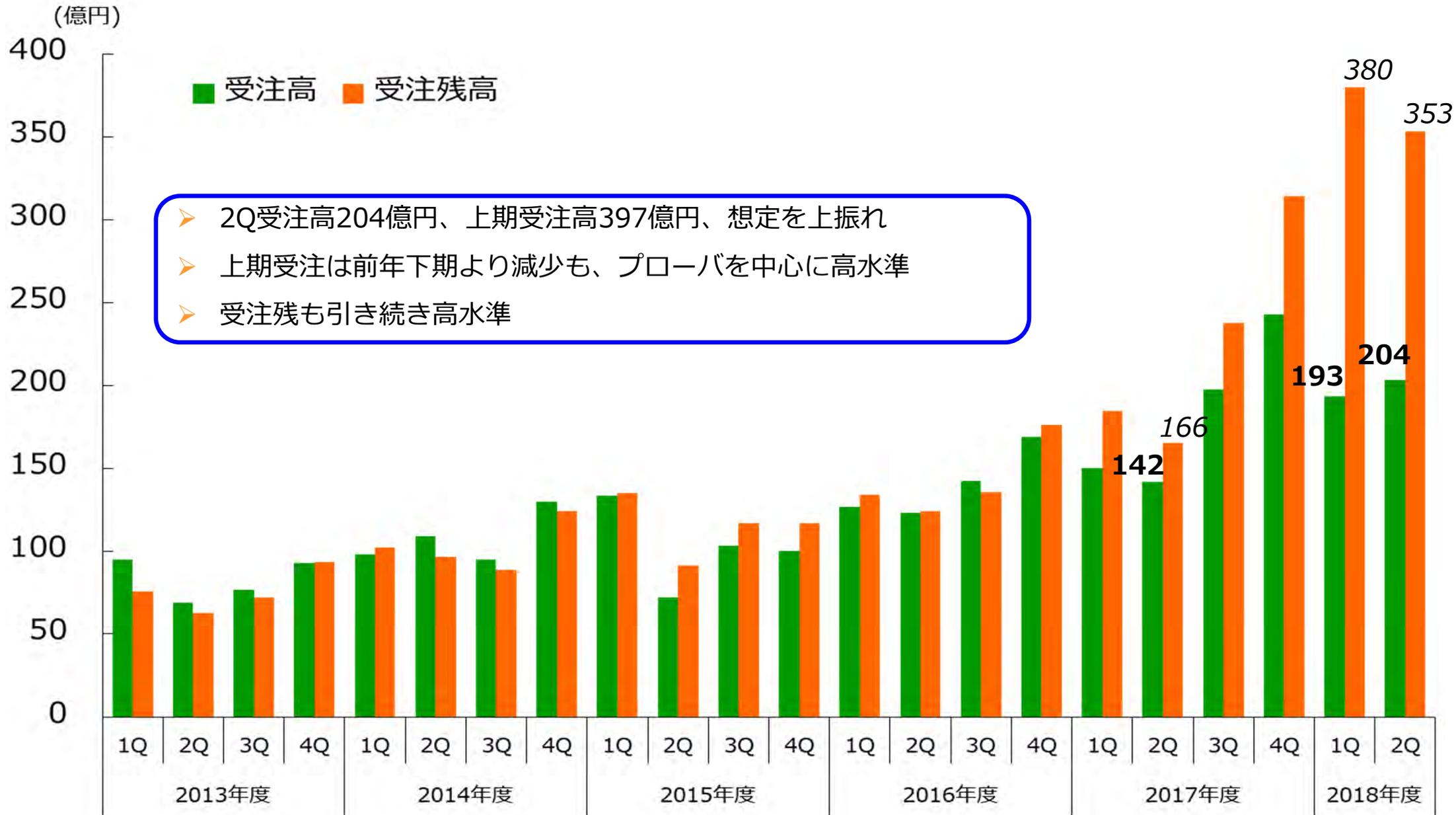
➤ 半導体は、1Qに対して出荷が大幅に増加

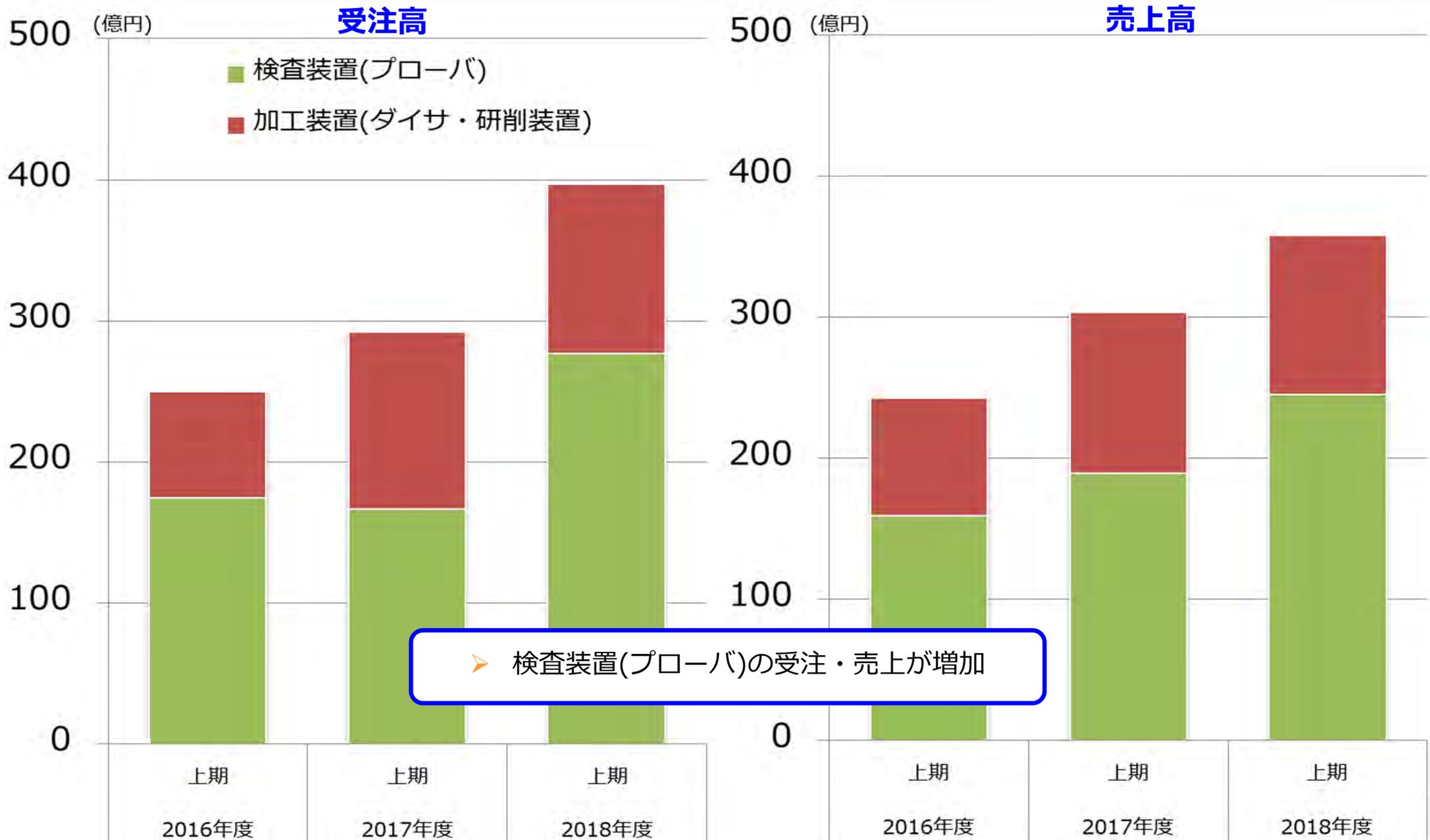
売上高(億円)

営業利益(億円)

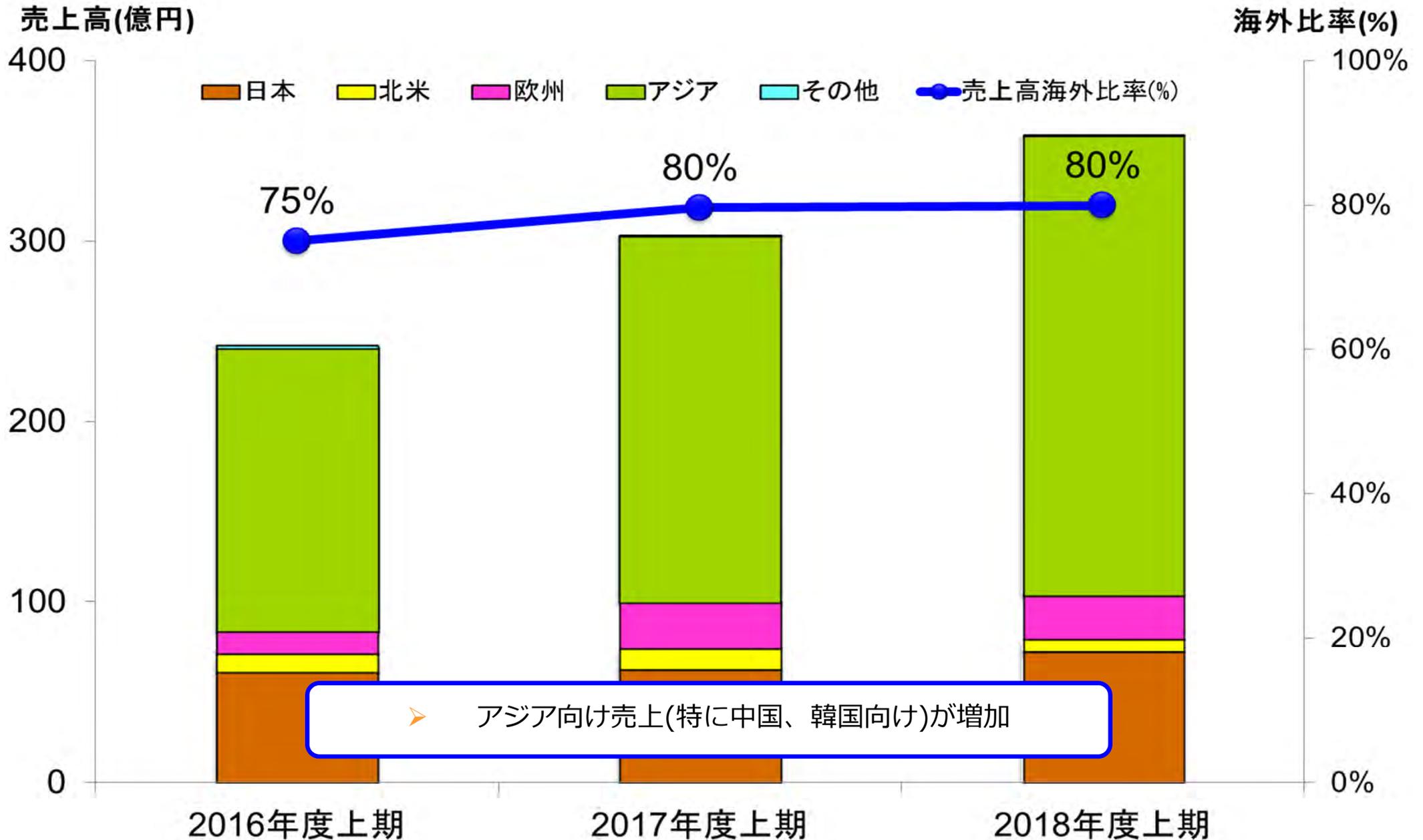


➤ 2Q売上高、営業利益は、想定を上振れ。上期営業利益は過去最高を更新

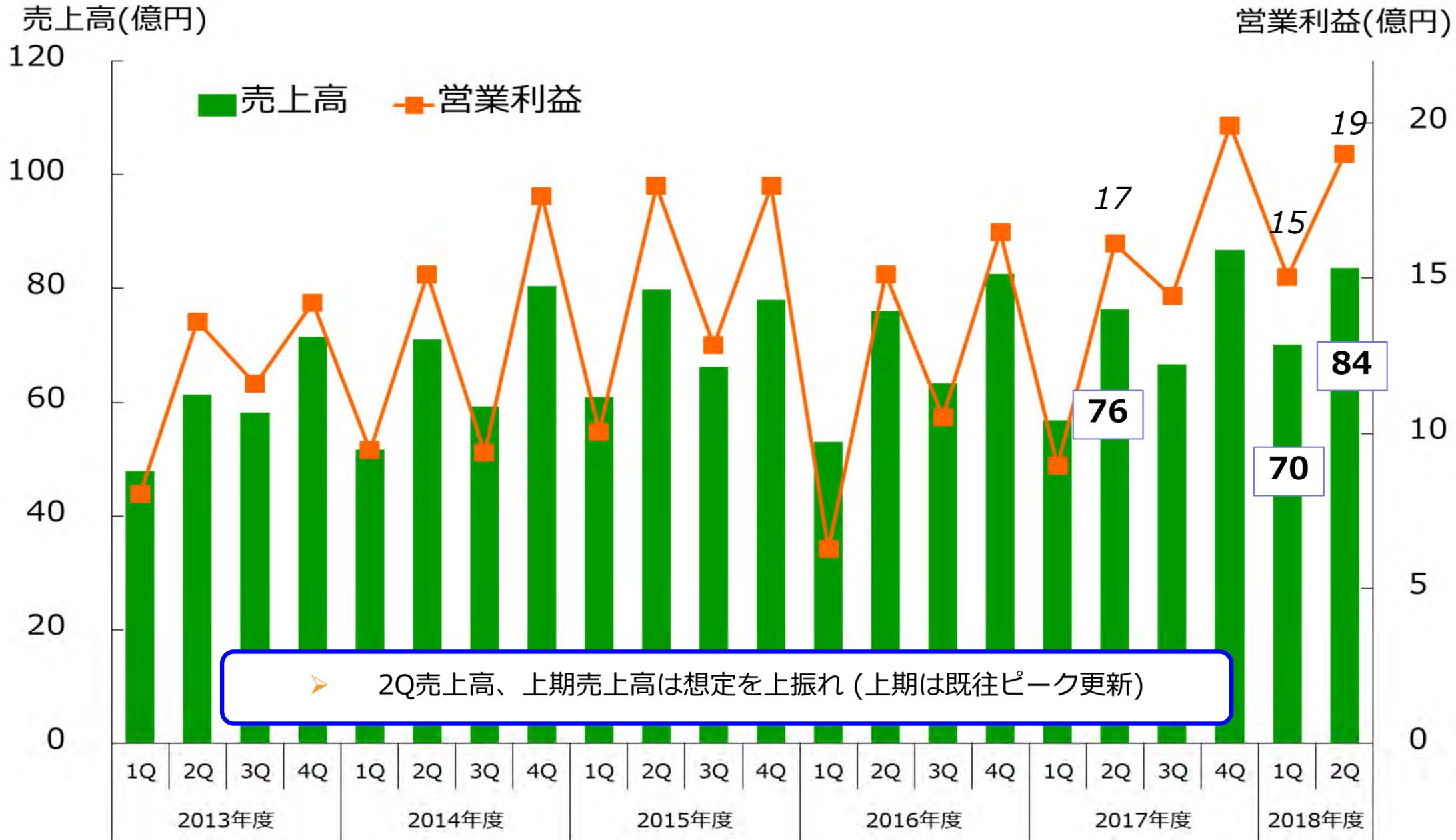




半導体 - 地域別売上高

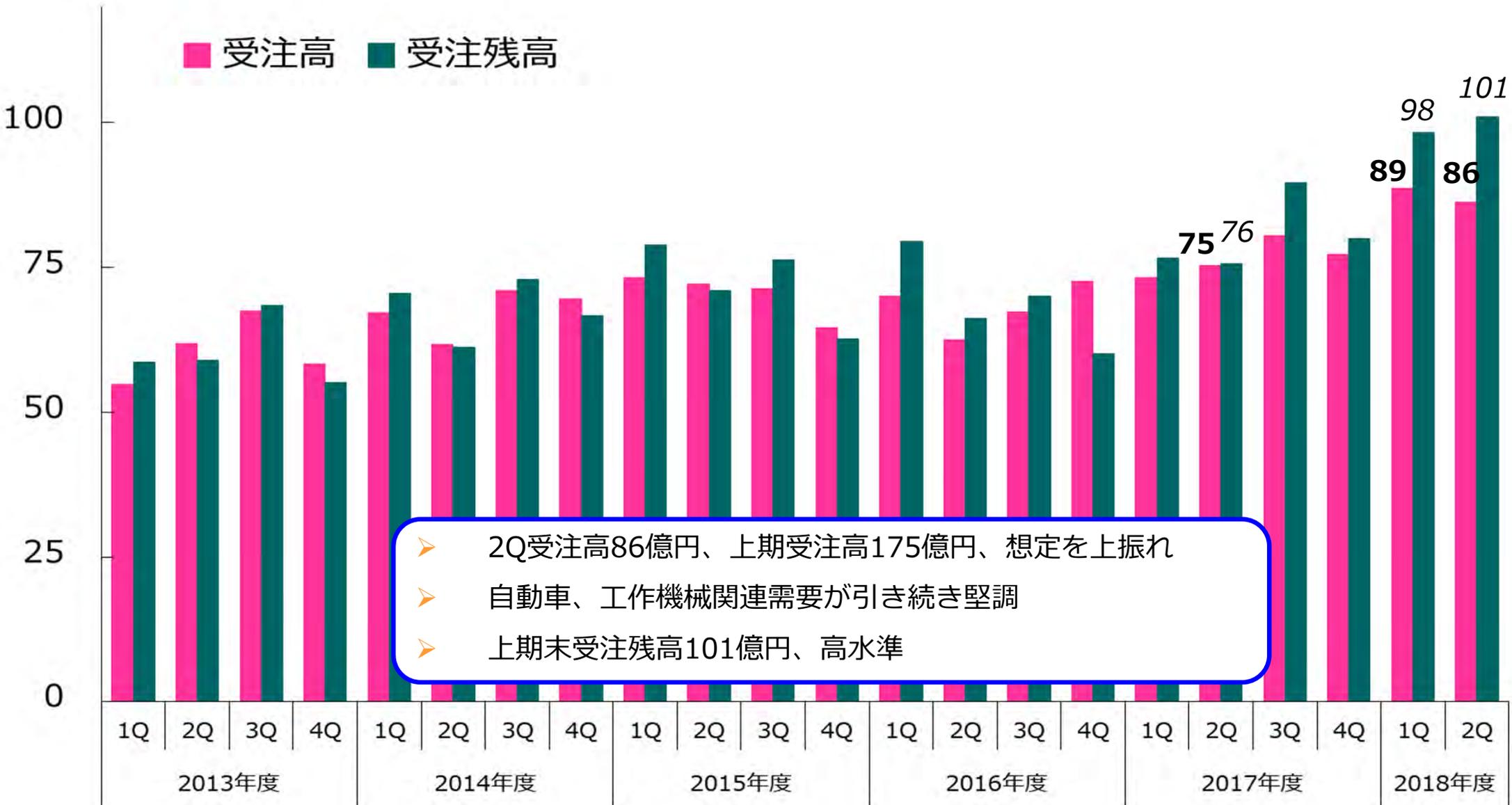


計測 - 売上高, 営業利益

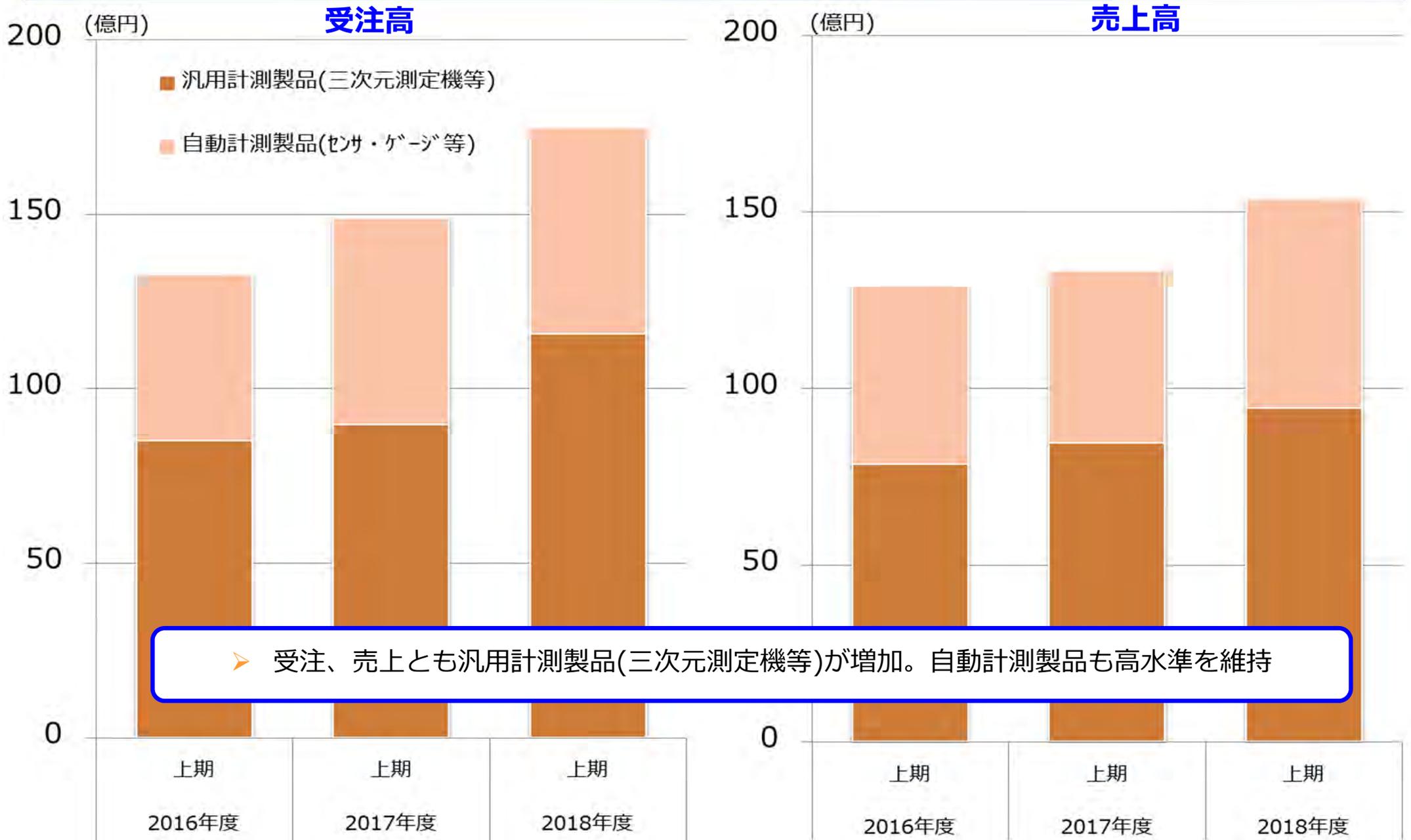


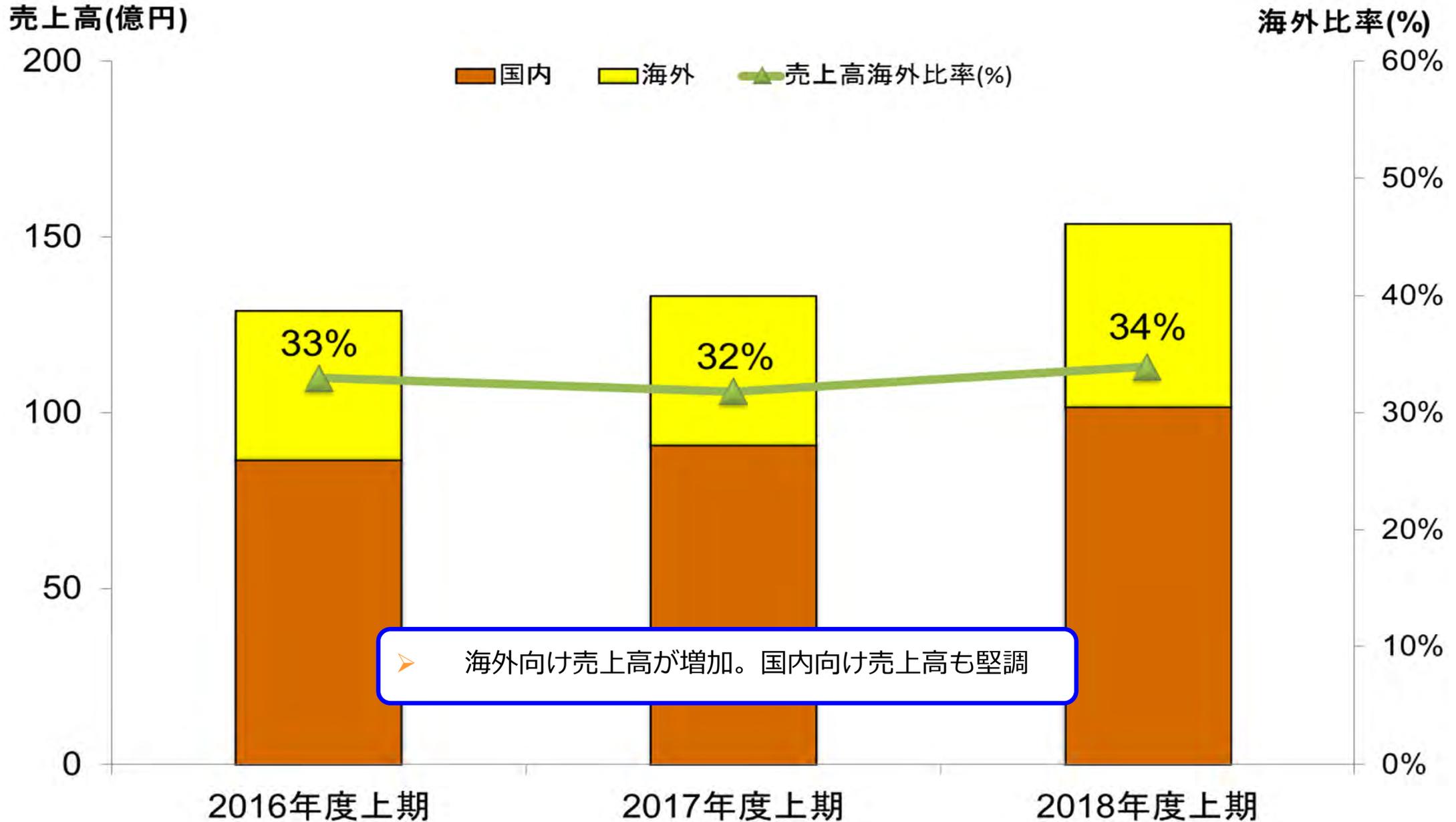
(億円)

■ 受注高 ■ 受注残高



- 2Q受注高86億円、上期受注高175億円、想定を上振れ
- 自動車、工作機械関連需要が引き続き堅調
- 上期末受注残高101億円、高水準





2018年度 第2四半期 貸借対照表

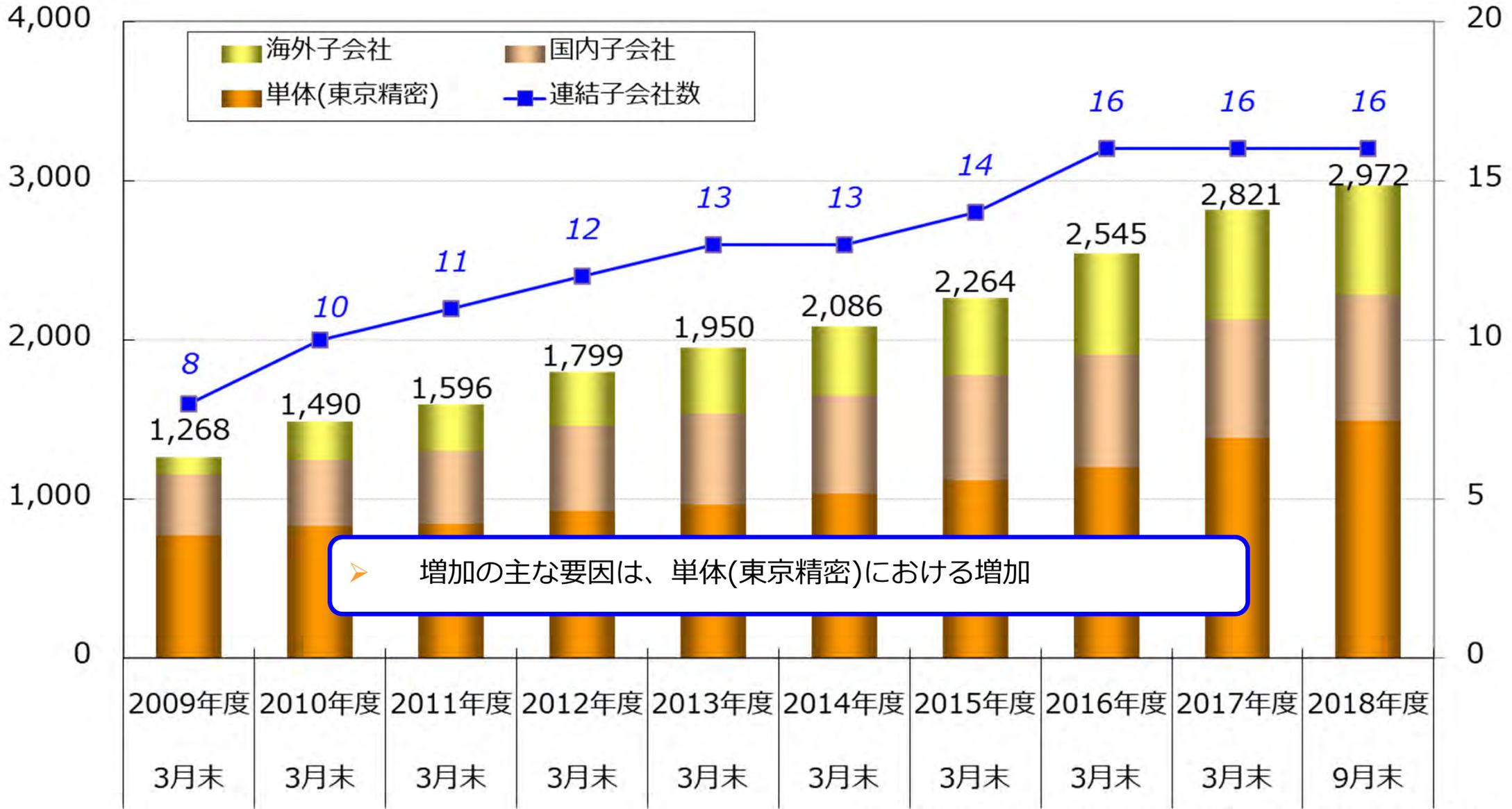
資産 (億円)	18/3末	18/9末	増減	負債/純資産 (億円)	18/3末	18/9末	増減
現預金	372	409	+37	支手・買掛金, 電子記録債務	219	256	+37
受取手形・ 売掛金・ 電子記録債権	334	346	+11	短期借入金	13	13	±0
在庫	223	246	+23	その他	96	90	-6
その他	20	13	-7	流動負債計	328	359	+31
流動資産計	950	1,015	+65	固定負債計	7	6	-1
固定資産計	379	394	+15	負債計	335	365	+30
資産合計	1,329	1,409	+80	純資産	994	1,043	+50
				負債・純資産合計 (内有利子負債)	1,329 (13)	1,409 (14)	+80 (+0)

		単位：億円		
		2016年度上期	2017年度上期	2018年度上期
現金等 期首残高		273	338	371
営業活動	税引前・償却前利益	75	103	121
	(売上債権+在庫) - 仕入債務	27	- 5	-1
	納税	- 19	- 40	- 33
	その他	3	10	1
	小計	86	68	88
投資活動		- 37	- 29	- 30
フリーキャッシュフロー		49	39	58
財務活動	社債・借入	- 2	0	0
	株式・配当金、他	- 14	- 15	- 21
	小計	- 16	- 15	- 21
増減額(含 換算差額・連結範囲変更)		+ 30	+ 25	+ 37
現金等 期末残高		303	364	408

従業員数推移

連結子会社数

従業員数(人)



➤ 増加の主な要因は、単体(東京精密)における増加

注) 上記従業員は、正社員と期末時点の臨時従業員の単純合算

次第

- ◆ 2018年度第2四半期 業績説明
- ◆ **中期目標の進捗**
- ◆ 2018年度通期業績予想
- ◆ 質疑応答

長期指標：ROE10%以上

中期目標：営業利益220億円
(2020年度迄に)

両輪にて達成

売上拡大
(1,100億円を目指す)

利益率向上
(営業利益率20%以上を目指す)

世界中の優れた技術・知恵・情報を融合して世界No.1の商品を創り出し、皆様と共に大きく成長してゆく

理念を示すモットー:

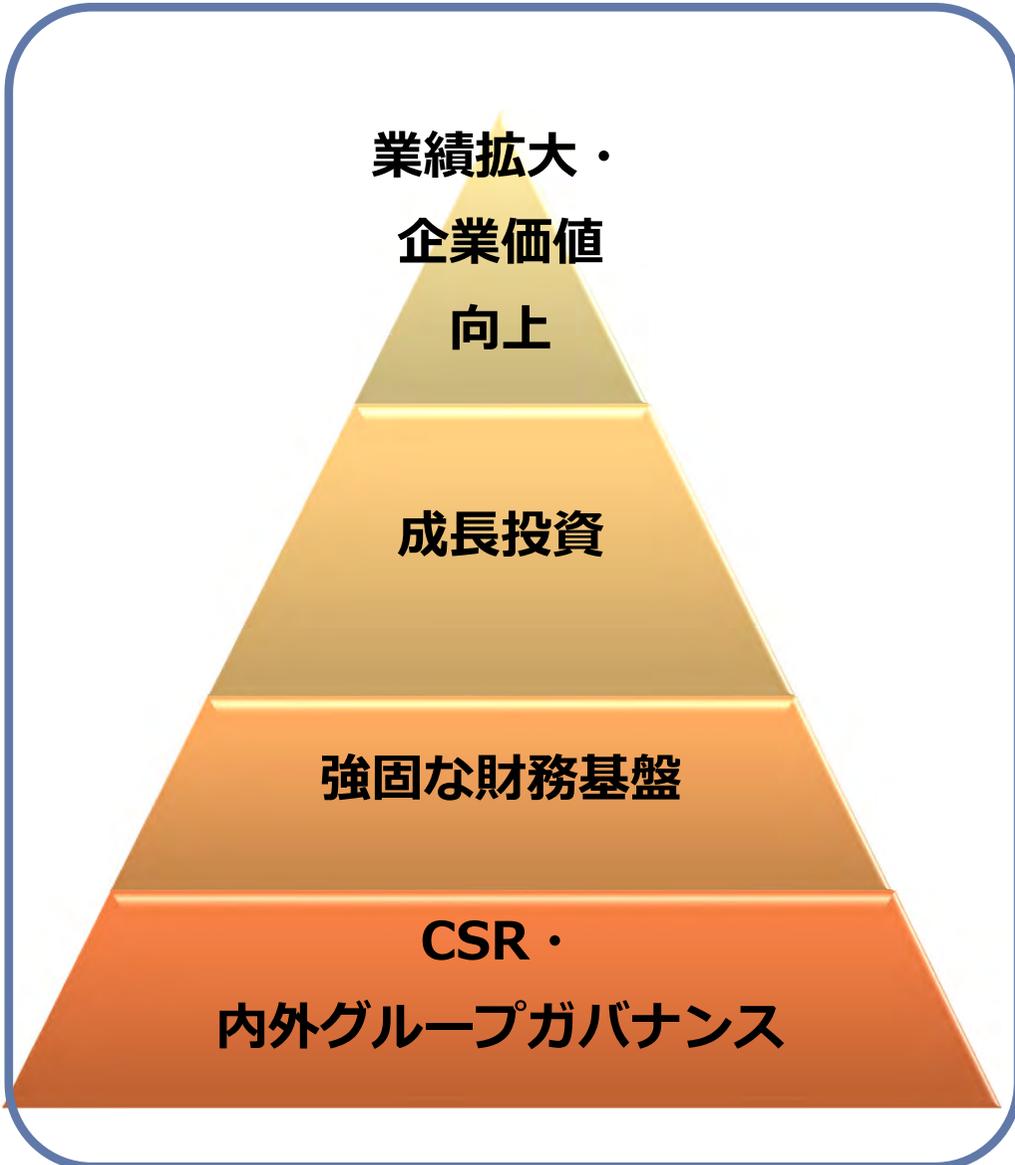
→ **「WIN-WINの仕事で世界No.1の商品を創ろう」**
WIN-WIN relationships create the World's No. 1 Products

コーポレートブランド:

→ **ACCRETECH**

“Accrete (共生)” と “Technology(技術)” の合成語

企業理念実現のための枠組み



当社事業構成の特徴

半導体

- ・ 強み:
 - ・ 精密位置決め制御技術
 - ・ 内製化
- ・ チャンス:
 - ・ 新技術・新デバイス

計測

- ・ 強み:
 - ・ 高精度・高分解能測定技術
 - ・ 信頼性
- ・ チャンス:
 - ・ 新分野・海外需要

- ・ バランスの取れた事業構成
 - 異なる事業領域を有することによる安定性(需要変動影響を吸収)

ネットワーク・通信を軸に新技術が発展、連鎖的な成長フェーズへ

IoT(モノのインターネット)

クラウドコンピューティング



VR/AR(仮想現実、拡張現実)



データ・人・モノのトラフィックが拡大



スマートフォン, 情報端末



自動運転・電装化



ファクトリーオートメーション



AI(人工知能), ビッグデータ



デジタル生産管理



ジェット機需要



半導体：新たな成長ステージ ⇒短期的には変動も、長期的には堅調

- ネットワーク関連：メモリ、電子部品、センサ
⇒短期的な需要変動はあるも、長期的には底堅い
- 車載関連：センサ、パワー、SiC基板
- 中国需要：投資本格化、新工場建設（～2019年）
⇒懸念材料有るも、長期的には一定の進展を予想

計測：持続的な成長が継続 ⇒当初の見方に変更なし

- 自動車：プラットフォーム革新、内燃機関 開発継続
- 工作機械：需要拡大に伴うゲージ需要，IoT
- 航空機：特に新興国の中型ジェット機 需要

技術面

製品競争力強化、対象市場拡大

生産面

**生産キャパシティの拡充
効率改善 (自動化・省人化)**

利益率改善

**ERP導入による情報共有化促進
サービス (フィールド、エンジニアリング) , 消耗品売上の拡充**

中期目標達成



キャパシティ拡充(半導体)

- 用地・建物取得
- 2019年度一部稼働予定
- 新工場完成までの間
近郊の工場を貸借

キャパシティ拡充(計測)

- 土浦工場敷地内に
新棟を建設
- 2020年度稼働予定

効率化

- ERP導入
- 2019年度稼働予定

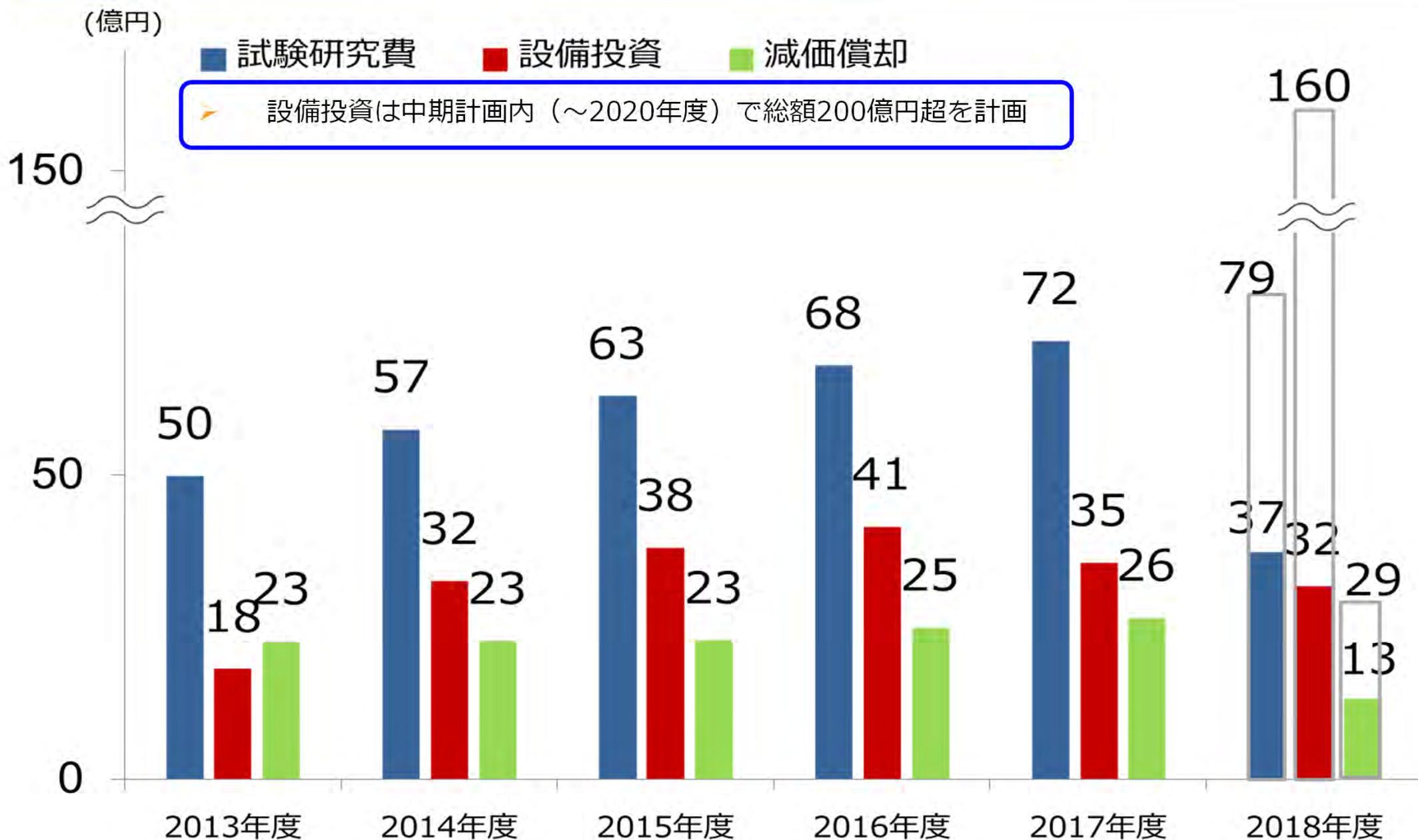
アプリ対応強化

- 台湾(新竹)にて
新アプリケーションセンター
設立
- 2020年度稼働予定

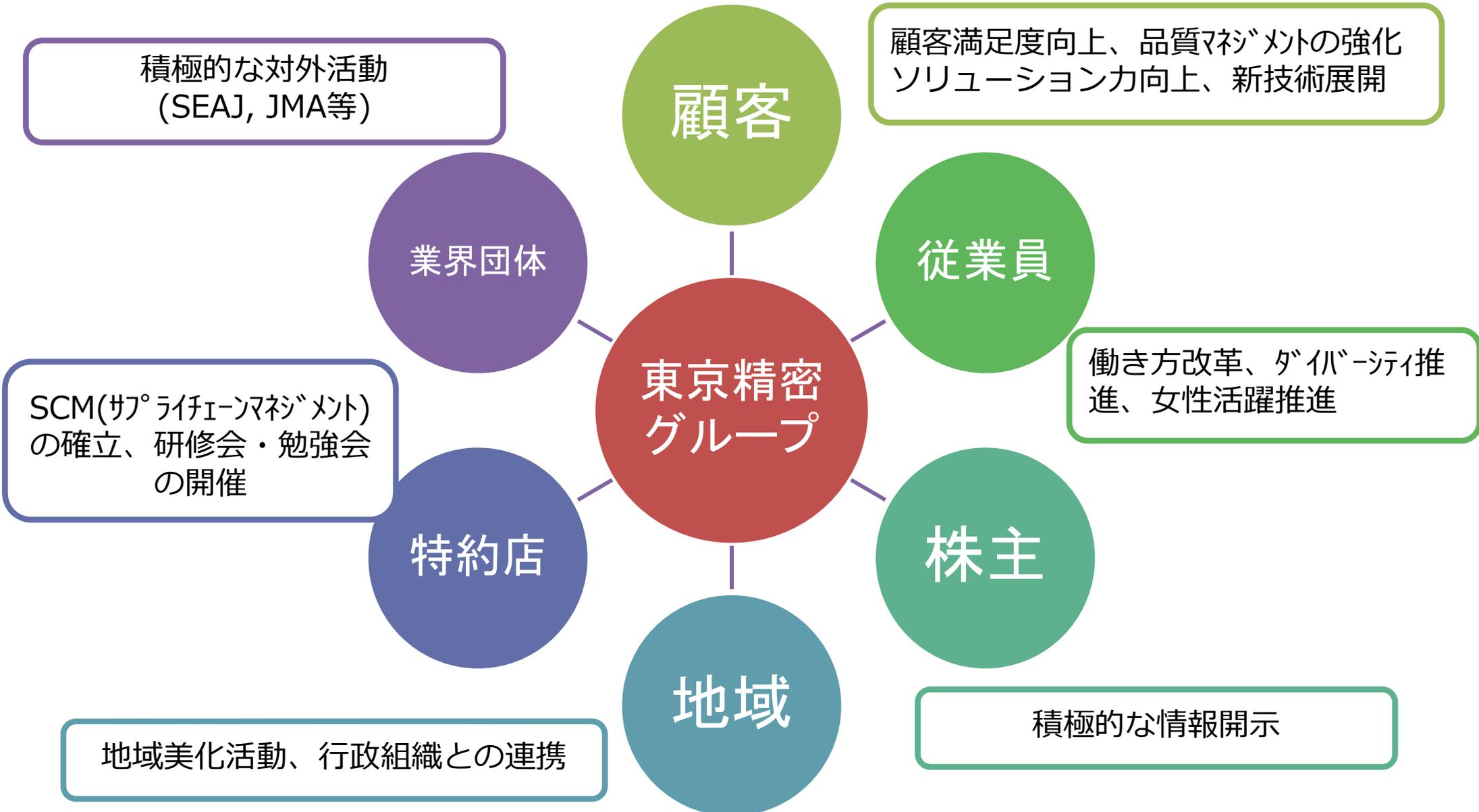
アプリ対応強化

- 大阪アプリケーションセンター
リニューアル
- 2019年度稼働予定

試験研究費、設備投資、減価償却



持続的可能な社会実現への取り組み (CSR活動)



Environment(環境)

- 環境考慮製品：LCAを考慮した環境配慮型製品の開発⇒新規開発製品への100%対応完了
- 温暖化防止：CO2排出量の削減⇒再生可能エネルギー活用による、電力使用量の削減実施

Social (社会)

- サプライチェーン：ESGの強化改善を実施⇒全サプライヤへESG強化改善体制を拡充済
- 女性活躍推進活動：女性が活躍できる会社へ⇒女性従業員による社内活動⇒諸規程を改訂

Governance(ガバナンス)

- グループ行動規範：全拠点への教育、浸透、見直し⇒行動規範のHP掲載、社員教育実施
- コンプライアンス：遵守体制の構築、教育、見直し⇒遵守体制構築、社員教育実施



今後、国連のグローバルコンパクトや関連するイニシアティブへの積極的な参加と活動を検討すべく、各種の取り組みを具体的目標をもって進める

次第

- ◆ 2018年度第2四半期 業績説明
- ◆ 中期目標の進捗
- ◆ **2018年度通期業績予想**
- ◆ 質疑応答

半導体

- 足許でメモリ投資減速の兆候があり、不透明
- 期初の想定通り、季節性（冬場まで軟調、春先に回復）を想定
- 生産は逼迫状態が続く

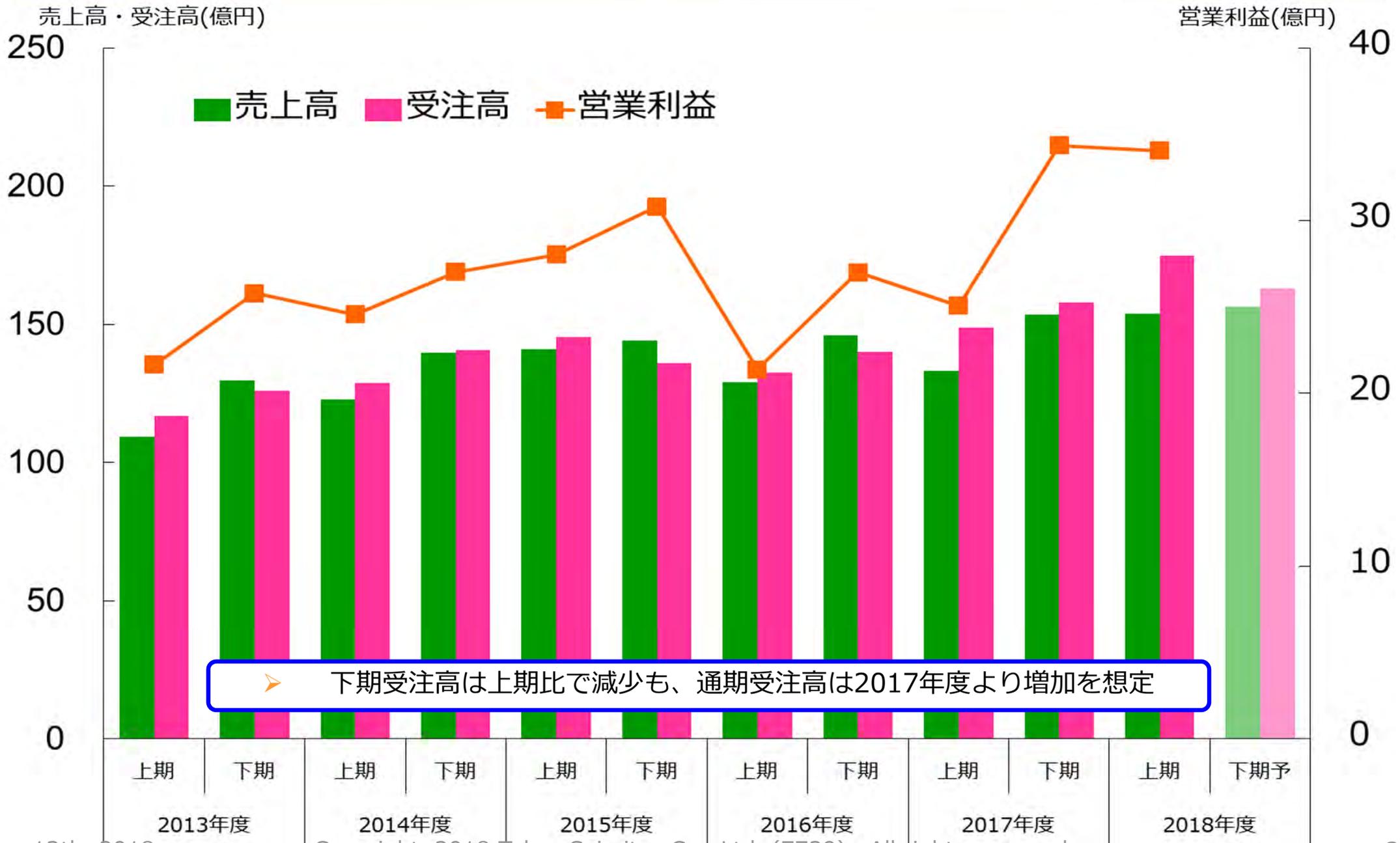
計測

- 自動車関連を中心に、国内モノづくり需要は堅調さを維持
- 米中貿易摩擦、各種通商協議の影響を注視
- 自動化対応、エンジニアリング対応への引合増加を見込む

	2017年度			2018年度				
	上期	下期	通期	上期	下期 予想	通期 予想	前回 予想 対比	前年比
売上高	437	445	882	512	488	1,000	+20	+13%
半導体製造装置	303	292	595	358	332	690	+7	+16%
計測機器	133	154	287	154	156	310	+13	+8%
営業利益	89	84	173	102	84	187	+12	+8%
同率	20%	19%	20%	20%	17%	19%	-	-
経常利益	90	87	173	108	81	189	+12	+8%
当期純利益	64	64	127	79	57	136	+8	+7%
1株配当	41円	51円	92円	49円(普通配) 10円(記念配)	49円(普通配) 10円(記念配)	98円(普通配) 20円(記念配)	+4円	+26円

- 上期の進捗と足許の状況を反映し、2018年8月10日に公表した業績予想を修正
- あわせて、配当予想を修正





次第

- ◆ 2018年度第2四半期 業績説明
- ◆ 中期目標の進捗
- ◆ 2018年度通期業績予想
- ◆ **質疑応答**



<http://www.accretech.jp/>